

# あぐり 最前線



## 土壌分析をしましょう！ —コスト低減に向けて—

JAでは、肥料の過剰施肥による無駄をなくしコスト低減に繋げるため、土壌分析を毎月実施しています。分析を希望される方は、約1合程度(200g)を採り、必ず土壌を乾燥させてから袋に入れ、住所・氏名・TELと、水稲・野菜(キャベツ、ハクサイ、等)・果樹(ミカン、カキ、等)など品目を記入して、6月16日(金)までに各営農センターへ「持参ください」。分析結果は7月中旬頃に「連絡いたします」。

## 市場出荷休日カレンダー (野菜・果樹)

日	月	火	水	木	金	土
				1	2	3
4	5	6	7	8	9	10
11	12	13	14	15	16	17
18	19	20	21	22	23	24
25	26	27	28	29	30	

## 7月

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30	31					

×は出荷できない日 □は日曜・祝日等

※防除薬剤のあとの数字は、安全使用基準で、**(収穫何日前まで使用可能か/通算使用可能回数)**を表しています。農業は農業安全使用基準を守り、正しく適期に防除してください。

例：表記が(14日/2回)の場合：収穫14日前までに2回使用可能

## 水稲

今月の作業は、**施肥、代かき、田植え、除草剤散布、病害虫防除**などがあります。

### ●病害虫防除

- ▽田植え3日前〜当日
- ・スクラム箱粒剤(50g/箱)
- ・田植え直前よりも、前日〜3日前に処理すると、薬剤が苗に確実に吸収され、より効果が安定します。
- ◎スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ) **【薬剤防除】**
- ・ジャンボタニシくん 1〜2kg/10a (60日/2回)
- ・ジャンボタニシが本剤を食べることで

殺菌効果を発揮します。また、水中に溶出された農薬成分により食害抑制効果が見られます。散布後7日間は湛水状態にし、落水やかけ流しはしないようにしましょう。

### 《耕種防除》

- ①水取り口と排水溝に3〜6mmの網目を張りましょう。
- ②代かきを丁寧に行い、田面を均平にするともに、田植え後はできるだけ浅水管理してください。
- ③貝および卵塊を捕殺しましょう(卵はつぶしてください)。

### ●元肥

品種や土質によって施肥量を調節しましょう。キヌヒカリは初期分けつ(株張り)を促すために、栽培ごよみの元肥量より1割程度増やしてください。

### ●除草(一発処理)

散布後1週間は止め水管理し、水持ちの悪い圃場では粒剤を使用しましょう。

### 《粒剤》

- ・アールタイプ1キロ(粒) 1kg/10a (田植え直後〜ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで/1回)

移植後30日まで/1回

\*田植え同時処理も可能です。

《フロアブル剤》

- ・サラブレッドKAI(フ) 500ml/10a (田植え直後〜ノビエ2.5葉期ただし移植後30日まで/1回)
- 《バック剤》
- ・エンペラージャンボ 25g×10個/10a (田植え直後〜ノビエ3葉期ただし移植後30日まで/1回)

### 除草剤使用時のポイント

- ①代かき、畦塗りは丁寧に！
- ・田面の凹凸がなくなり均平になるよう耕起・代かきは丁寧に行いましょう。
- ・漏水しないよう、穴や崩れがあれば丁寧に畦塗りしてください。漏水しやすい場合は、畦波板やシートなどで補強しましょう。

### ②水管理をしっかりと！

・水口と水尻をしっかりと止め、水量は、粒剤の場合3〜5cm、液剤およびバック剤の場合は5cm以上の湛水状態で散布します。

・散布後1週間程度は水を動かさないようにしましょう。かけ流しや田面の露出は、効果の低下や葉害の原因となるので避けてください。

・入水が必要な場合は、ゆるやかに入水しましょう。

③雑草が多い水田では、中期剤を使用しましょう。

### とりこぼし雑草対策

- ・サンパンチ1キロ(粒) 1kg/10a (移植後15日〜ノビエ3.5葉期ただし収穫60日前/1回) (湛水散布)
- ・クリンチャーバスマE(液) 液量1000ml・希釈水量70〜100ℓ/10a (移植後15日〜ノビエ5葉期ただし50日前/2回) (落水散布)

穫60日前/1回) (湛水散布)

・モゲトン(粒) 3kg/10a (ウキクサ類、藻類の発生初期〜発生盛期、ただし収穫45日前まで/3回)

を散布し、藻類がなくなつてから除草剤を散布してください。藻類の発生が少ない場合、雨上がりや早朝に消えることがあるので、タイミングを見計らって除草剤を散布することも可能です。

### 田植え後の水管理

田植え後は苗の活着を良くし、初期生育を促進させ、有効茎数を確保することが重要になります。除草剤散布後、1週間程度経過してから浅水管理(2〜3cm)を行い、水温と地温を上げて初期生育を促進させましょう。

### ●収穫

ハウスシヨウガの収穫適期の目安は、主茎の葉数が25〜26枚頃です。収穫が遅れると収量は増えますが、肌が悪くなり品質が低下するので適期収穫を励行してください。

## 新シヨウガ



また、収穫したシヨウガを畑で乾燥させ過ぎると、汚れが落ちにくくなり、品質が低下します。収穫前は灌水をして土壌を湿らしてください。収穫したシヨウガは布で覆う、または散水などを行い、早めに水洗いするようにしましょう。

# お米の出荷はJAへ!

令和5年産のお申込みは**6月30日(金)**まで

## JAの組織力を活かした集出荷と販売体制

1. 集荷したお米はJA直売所などの独自販売に加え、学校給食へ供給するなど地産地消の拡大を図るとともに、**業務需要など販路拡大と販売単価の向上に努めています。**
2. お米の搬入困難な方のために、**無償で引き取りにお伺いする「庭先集荷」を行っていますので、遠慮なくお申し付けください。**
3. JAは、農産物検査機関としてお米の検査を実施し、安全・安心・品質を担保したうえで、「**信頼されるJAブランド米**」として販売しています。

**JAわかやまは組合員の農業所得向上に向け、全力で取り組んでいます。出荷はJAにぜひ、お申込みください。**

お問い合わせ・お申込みは、最寄りの各支店・営農センターまで。

## ピーマン



### ●灌水

ピーマンは乾燥に弱く、異常乾燥が続くと肥大、着果ともに悪くなります。また、今年は春先からの乾燥によりハダニ類やうどんこ病の発生が多くみられます。灌水・パイプでの灌水と併せて畦間灌水をするとともに、薬剤による適期防除を心掛けてください。

### ●病害虫防除

- ◎うどんこ病
- ・シグナムWDG 200倍(前日/2回)
- ・パンチョTF(顆) 200倍(前日/2回)
- ・パレード(フ) 200〜400倍(前日/3回)
- ◎灰色かび病
- ・アフエット(フ) 200倍(前日/3回)
- ・ロフラール水 1000〜1500倍(前日/4回)
- ◎ハダニ類
- ・ダニトロン(フ) 1000〜2000倍(前日/3回)
- ・ニッソラン(水) 2000〜3000倍(前日/2回)
- ◎アザミウマ類
- ・プレオ(フ) 1000倍(前日/2回)
- ・ディアナスC 2500〜5000倍(前日/2回)
- ◎アブラムシ類
- ・ウララDF 2000〜4000倍(前日/2回)
- ・コルト(顆) 4000倍(前日/2回)

### ●整枝・剪定

生育し枝葉が混み合ってくると日照不足、通風不足で品質が低下します。混み合っている部分の小枝や徒長枝などの不要な枝を収穫時に取り除いてください。また、ふところ部分の採光をよくする整枝・剪定を行ってください。

## シシトウ



### ● 整枝・剪定

枝葉が混み合ってくると病害虫の発生や収獲量に影響するので、各主枝の生育と均衡をはかりながら、不要な枝を収穫時に取り除いてください。また、ふところ部分の採光をよくする整枝・剪定を行ってください。

### ● 灌水

シシトウは乾燥に弱く、異常乾燥が続くと着果、肥大ともに悪くなります。灌水パイプでの灌水と併せて、畝間灌水を行ってください。ハウス内では、灌水による流亡は起こりません。逆に、濃度障害の発生に注意する必要があります。

### ● 病害虫防除

収穫作業時に「葉の裏」や「花の中」を十分観察し、病害虫の早期発見、早期防除を心掛けてください。

## ニンジン



今月より本格的に収穫が始まります。Mサイズ中心で出荷できるよう、早めの収穫を心掛けてください。また梅雨に入ると腐り等品質の低下が問題となるので、注意してください。

## 青ネギ



### ● 播種

128穴プラグトレイを使用し、1穴あたり

り10粒を目安に播種してください。苗床に直接播く場合はすじ播きまたはばら播きで覆土を行い、プロ有機などを施用してください。

ネギの発芽適温は20〜25℃です。高温になる場合は必ず遮光してください。

### ● 定植時に必ず植穴処理を行ってください。

### ● 病害虫防除

高温、乾燥が続くとアブラムシ類やアザミウマ類が多発します。商品価値を著しく損ねるので、定期的な防除が必要です。

### ▽ 定植時

◎アブラムシ類・アザミウマ類  
・スタークル(顆) 50倍(0.5ℓ/箱) (定植前日〜定植時/1回) \*灌水注

## トウガン



早熟栽培では収獲量が増え、普通栽培では着果の序盤になります。

### ● 敷きわら

乾燥と雑草の発生を抑えるとともに、病害虫発生防止のために、つるの伸長に合わせて敷きわらを敷いてください。

### ● 追肥

・ニューパワーユーキ262(40kg/10a) または  
・BMスーパー野菜君(60kg/10a)  
\*時期や量は、株の生育や気象、土壌条件により加減してください。  
●パット敷き・玉回し

地面に接している果皮色が白くならないよう、果実が20cm程度になったらパットを敷いてください。また、均一に着色

するように玉回しを行ってください。

### ● 種採り

種採り用のトウガンは、1番果または2番果を用います。長円形で整っており、濃緑色でずっしり重いもの、病害虫や日焼けのないものを選んでください。日射しが強くなると果実にわらを被せてください(日焼けによる腐り防止)。果実表面に白い粉が現れたら種採り用としての収穫時期です。

## キュウリ



### ● 摘葉・灌水

茎葉が混んでくると落花や不良果が生じるため老化や病気になった葉を摘葉してください。梅雨明け後は土の乾燥具合を見て2〜3日に1回灌水を行ってください。

### ● 病害虫防除

▽6月上旬  
◎疫病・うどんこ病・炭そ病・べと病  
・ジマンダイセン(水) 600倍(前日/3回)  
◎アザミウマ類・ハダニ類・ハモグリバエ類  
・グレーシア(乳) 200倍(前日/2回)  
▽6月中旬  
◎うどんこ病・コナジラミ類  
・パルミノ 200倍(前日/3回)  
◎アザミウマ類・ハダニ類・ウリハムシ・コテツ(フ) 200倍(前日/3回)  
▽6月下旬  
◎うどんこ病・灰色かび病・べと病  
・ダコニール1000 1000倍(前日/12回)

## ナス



### ● 整枝・摘葉

側枝は花の上1葉残して摘芯し、収穫後はその下の1芽を残し切り戻します。また、葉が混み合っている部分や老化し黄色くなっている葉は摘葉してください。

### ● 病害虫防除

▽6月中旬  
◎灰色かび病・うどんこ病  
・シグナムWDG 1500倍(前日/3回)  
◎アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ハダニ類  
・モペント(フ) 200倍(前日/3回)  
▽6月下旬  
◎うどんこ病・すすかび病  
・ストロビー(フ) 300倍(前日/3回)  
◎アブラムシ類・コナジラミ類・アザミウマ類・ハダニ類  
・グレーシア(乳) 200倍(前日/2回)

## ウメ



### ● 今月は収穫作業です。

青梅収穫適期は、毛じ(表面に生えている毛のようなもの)が抜けて果面に光沢が出てきた頃が目安です。樹冠上部や日当たりのよい場所は成熟が早いため、注意して収穫してください。

### ● 病害虫防除

▽収穫後  
◎カイガラムシ類  
・モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)  
\*多発園では必ず散布してください。

## モモ



今後は着色管理に注意し、除袋作業と反射マルチの敷設を行ってください。

除袋が早いと小ひびが発生し、遅いと着色前に熟期がくるため採り遅れに注意してください。目安は、果実全体は白っぽく抜けているが果頂部と縫合線部に青みが残る頃です。

### ● 病害虫防除

今年はずん孔細菌病の発生が多い見込みなので、防除を徹底しましょう。

▽6月上旬〜中旬  
◎せん孔細菌病  
・デラン(フ) 600倍(7日/4回)  
◎黒星病・灰星病  
・ダコニール1000 1000倍(前日/6回)  
◎シンクイムシ類・アブラムシ類  
・ダイアジノン(水) 34 100倍(前日/4回)  
▽6月下旬 ※中・晩生種  
◎せん孔細菌病  
・バリダシン(液) 5 500倍(7日/4回)  
◎黒星病・灰星病  
・オルフィンプラス(フ) 300倍(前日/3回)  
◎シンクイムシ類  
・ロディー(水) 1000倍(前日/5回)

## イチジク



今月はアザミウマの防除とシルバーマルチを敷設しましょう。

### ● 誘引

風による果実の傷みを防止するため、誘引を行ってください。秀品率向上のため、結果枝の間隔は40cm以上を保ってください。

### ● 病害虫防除

▽6月5日頃  
◎アザミウマ類  
・スピノエース(顆) 500倍(前日/1回)  
・スカッシュ 200倍(加用) \*展着剤  
▽6月15日頃  
◎黒かび病  
・トップジンM(水) 1000倍(7日/5回)  
◎アザミウマ類  
・ダントツ(液) 200倍(3日/3回)  
◎ハダニ類  
・スターマイト(フ) 200倍(前日/1回)  
・スカッシュ 200倍(加用) \*展着剤  
▽6月下旬  
◎株枯病  
・オンリーワン(フ) 200倍(前日/3回) \*1樹あたり5〜10ℓ灌水

## カキ



梅雨をむかえるため、日照条件を改善するように突発枝の整理等、新梢の管理を行ってください。

### ● 摘蕾・摘果

摘蕾は終了していますが部分的に枝などで見落とし分の蕾や傷果、奇形果を取り除いてください。

◎アブラムシ類・アザミウマ類・コナジラミ類・ウリハムシ

・モスピラン(顆) 200倍(前日/3回)

が高いので防除を徹底してください。  
ハーベストオイルの散布は露がなく  
なつてから行ってください。

▽6月下旬〜7月中旬

◎黒点病  
・ジマンダイセン(水) 600倍(30日/4回) または

・ペンコゼブ(水) 600倍(30日/4回)

◎カイガラムシ類・アザミウマ類

・ゴマダラカミキリ(成虫)

・ダントツ(液) 200倍(前日/3回)

◎ミカンサビダニ

・サンマイト(水) 300倍(3日/2回)

◎浮皮・果皮障害軽減

・バイカルティ 1000倍(加用)

梅雨明け後のダニの発生に注意し、発生園では殺ダニ剤を使用しましょう。

なお、ミカン以外の柑橘類は、ジマンダイセン(水)・ペンコゼブ(水) 600倍(90日/4回)となっているので農薬散布時は注意してください。

◎カミキリムシ類

ゴマダラカミキリの成虫は6月〜8月に出現し、雌は7月上旬に樹の隙間に産卵します。孵化した幼虫は内部を食害し、樹勢の低下および枯死を引き起こします。

・モスピラン(顆) 400倍(14日/3回)

・アプローチB1 1000倍(加用)

ミカン以外の柑橘類には

・モスピラン(顆) 200倍(14日/3回)を散布してください。

捕殺による防除は、行動が緩慢な早朝に行うと効果的です。

# 肥料価格高騰対策事業(春肥) 申請受付のご案内

## 受付期間

令和5年6月12日(月)～7月9日(日)

※JAでは、JA購入分のみの受付となりますのでご注意ください。

## 対象者

農産物の販売実績があり、  
化学肥料使用量の2割低減に取り組む農業者。

## 対象期間

令和4年11月～令和5年5月の間に購入し、  
本年の春肥に使用する肥料。

## 必要書類

- ①春肥(令和4年11月～令和5年5月)の納品日・購入価格がわかるもの。→JAが用意します。
- ②誓約書・同意書      ③振込口座届出書
- ④化学肥料低減計画書→国が定める取り組みメニュー15項目のうち2項目以上を選択し、取り組む。



農林水産省  
「肥料価格高騰対策事業」

受付およびお問い合わせは、最寄りの営農センターまで

## 農地中間管理事業による 農地の貸借・借受 希望者募集中

この事業は、(公財)和歌山県農業公社(農地中管理機構)が、規模縮小や後継者がなく離農しようとする農家の農地を借り受け、規模拡大したい農家や新規就農者などに貸し付けるものです。

### 農地中間管理事業のメリット

#### 1 公的機関の機構との契約なので安心!!

出し手農家…農地は契約期間が終われば確実に返還されます。  
賃料は公社が回収するので手間がかかりません。

受け手農家…農地の所有者が複数の場合でも契約は公社とだけで済むので、安心して耕作ができます。

#### 2 一定の要件を満たせば支援が受けられます。

詳しくは、  
営農生活部(☎473-9402)まで

## Uターン

## in和歌山/ 就農相談フェア

県内で新たに農業を始めたいと考えている方を対象に、さまざまな相談をお受けします。また、先輩就農者から話を聞くことができる「新規就農セミナー」も同時に開催します。本フェアは事前予約優先のうえ、当日参加の受け付けとなります。ご予約は県就農支援センターHPから所定の様式をダウンロードしてお申込みください。

※申込期間[6月5日(月)～6月30日(金)まで]

日時 令和5年7月16日(日) 10:00～15:00  
※新規就農セミナーは11:00～12:00、13:00～14:00

場所 和歌山県JAビル2階和ホールABC  
(和歌山市美園町5-1-1)  
※新規就農セミナーは和ホールCにて開催

相談受付内容 ●就農相談、移住相談、農林大学進学相談など

※参加料：無料

※お申込み方法：郵送・FAX・メールのいずれか

※ご不明な点は、お電話でお問い合わせください。また、内容を変更する場合がございますので、開催日前までにHP等でご確認ください。

お問い合わせは、和歌山県農林大学校就農支援センターまで

住所 〒644-0024 御坊市塩屋町南塩屋724

TEL 0738-23-3488

FAX 0738-23-3489

メール e0716011@pref.wakayama.lg.jp



HP

みんなで取り組む!!

# 水稻のジャンボタニシ対策

## 1. 耕種的防除

### ①貝の密度を低下

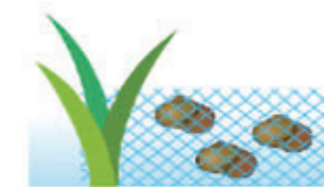
ほ場や用水路で貝や卵塊を見つけ次第処分しましょう。

卵は水中では呼吸できず死亡するので、赤色の卵塊を水中にかき落とすのが効果的です。



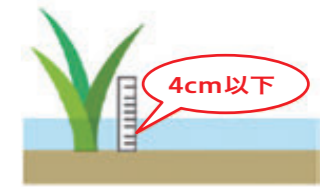
### ②侵入防止対策

目合5mm程度の網をほ場の水口に張り、水路からの侵入を防ぎましょう。



### ③食害防止対策

水深を4cm以下の浅水にすると貝が活動できず、ほとんど食害されないので、浅水管理をしましょう。



## 2. 薬剤による防除

ジャンボタニシは田植え後約20日間の被害が大きく、また同一ほ場では深水のところに被害が集中するので、効率的に農薬を散布しましょう。薬剤散布の適期は田植え直後です。

薬剤施用時は湛水状態を保ち、薬剤が用水路や池に流れ込まないようにしましょう。

スクミリンゴガイ(ジャンボタニシ)に有効な薬剤

令和5年4月現在

薬剤名	施用量	使用時期/使用方法/回数
ジャンボたにくん	1～2kg/10a	収穫60日前まで/湛水散布/2回以内

農薬の使用にあたっては、登録内容を確認してください。

## 3. 地域ぐるみ防除(一斉捕殺)

一斉捕殺作業

7月15日(土)、16日(日)

和歌山市内全域

注1) 一斉捕殺時のジャンボタニシは、分別収集による指定ゴミ袋にて回収させていただきます。

注2) 上記日程において、地域ぐるみでジャンボタニシを捕殺していただいた場合は1袋(10kgが目安)につき500円の助成をさせていただきます。上記日程の日曜日・正午までに各営農センターまでお持ち下さい。

なお、助成を希望される場合は必ず事前に各営農センターまでご連絡ください。

## 4. その他注意事項

農薬取締法に基づく農薬登録を受けていない資材(椿油粕等)は、ジャンボタニシの駆除目的に使用することはできません。